

## イベント時に掲示する学習パネルの来園者の認知度について

堀口 由美子

GW イベント「Save the animal～あなたの知らない絶滅危惧種」の企画の一つとして、展示種の中でも絶滅が危惧されている種を紹介するクイズラリーを実施した。R3年度の実施時は、5種の動物をテーマにしたクイズパネルを各動物展示場前にそれぞれ設置した。R4年度は、わくわく広場に5つのパネルを並べて設置した。R3年度、R4年度とも、パネルのサイズや記載内容は同様とした。クイズパネルの来園者の認知度を確かめるために、動物園出口前で来園者に職員1名がランダムに声をかけ、インタビューを実施した。

R3年度の園内各所にパネルを置いたクイズラリーでは、パネルの存在には気づいている組は92%であったが、内容まで覚えている組はそのうち30%程度だった。R4年度は内容をもっと記憶してもらうために、パネルをわくわく広場にすべて集中して設置するよう改善した結果、パネルの存在に気づいた組が59%に、さらに内容まで覚えている組は20%と、R3年度より減少してしまった。

パネルがまとまって設置してあるほうが内容の記憶が残るのではないかと予想し、集中してパネルを設置したことが逆効果となってしまう、パネル展示場所を通りかからなかった人は当然パネルを見ず、また通りかかった人も素通りすることが多いことが分かった。動物がいない場所にパネルを展示したことも、足を止めにくい要因になったと思われた。

今回の調査で、動物展示とクイズパネルはセットで展示する方が来園者の認知度は向上することが明らかになった。また、この場合パネルの設置場所が園内に分散することから、どのパネルを見ても同じテキストホームメッセージが受け取れるように内容を工夫することで、より効果的なパネルになるのではないかと予想された。